

太田市自分ごと化会議 2019
報告書

「行政情報のあり方」

令和2年2月

目 次

1. はじめに	1
2. 「太田市自分ごと化会議 2019」実施概要	2
3. 「太田市自分ごと化会議 2019」からの行政に対する 5 つの提案と 私たちができる 4 つのこと	4
(1) 行政に対する 5 つの提案.....	5
(2) 私たちが出来る 4 つのこと	10
4. 付録：アンケート結果.....	14

1. はじめに

太田市長 清水 聖義 様

過去2回実施された太田市住民協議会において、「市民と行政との間で情報共有が出来ていないこと」が共通の課題として挙げられたことを受け、私たち太田市自分ごと化会議2019では、「行政情報のあり方」をテーマとして2019年8月から2019年12月にかけて全4回に亘り議論を重ねて参りました。

本会議には、無作為に抽出された1,300名の中から、地域の課題解決を願う33名の市民が集まりました。年齢は16歳から78歳まで、職業や経歴など多種多様な人たちで構成され、様々な視点で意見が交わされるなど、とても充実した貴重な経験をすることができました。

議論の前半は、「広報紙を読んでもらうためにどうすれば良いか」、「知りたい情報を調べやすくするためにどうするか」、「自分には関係が無いと思われがちだが、実は社会で生活していくために必要な情報をどう伝えるか」など、発信側に主眼を置いた意見が挙げられましたが、議論を重ねるにつれて、最終的には「受信側の意識が変わらないと情報は“伝わらない”のではないか」との意見が多く出されるようになってきました。まずは、「私たち自身が太田市をもっと好きになり、さらに良くしたいと思うこと」、そして、「太田市のことを“自分ごと”として行政情報を取りにいくこと」、さらには、「自らが広く発信していくこと」等が大切であることに気づかされました。

私たちは、これらの「気づき」を太田市民や行政に伝えたいとの思いで、本報告書を作成致しました。

本報告書が私たちのまち太田市に少しでもお役に立つことを願うとともに、太田市自分ごと化会議2019への参加をきっかけとして、今後できるだけ太田市のことを「自分ごと」にしていきたいと思いをします。

最後に、太田市自分ごと化会議2019という素敵な機会を提供いただいた太田市長はじめ太田市のみなさまに心より感謝します。ありがとうございました。

令和2年2月
太田市自分ごと化会議2019 委員一同

2. 「太田市自分ごと化会議 2019」実施概要

○委員・太田市職員・コーディネーター・ナビゲーター

無作為に抽出し会議委員の案内を送付した数	1,300 件
応募した委員（応募率）	33 人（2.5%）
各分科会の委員の数 ※会議に参加した委員の数	32 人
・第1分科会	16 人
・第2分科会	16 人

第1分科会	委員	新井 孝之	委員	飯塚 清苑	委員	宇野 英津子
	委員	大澤 宏昭	副分科会長	大原 彩香	委員	上村 啓子
	委員	菊地 千代乃	委員	小林 紀男	委員	小堀 香緒里
	委員	重田 哲也	委員	関根 忠	分科会長	竹内 達也
	委員	立石 哲也	委員	千田 千恵子	委員	宮野 栄一
	委員	山口 佳子				
第2分科会	副分科会長	相澤 信幸	委員	阿久澤 和弘	委員	岩崎 真紀
	委員	小笠原 裕美	委員	勝部 信男	委員	首藤 綾子
	委員	馬醫 歳子	分科会長	畠山 真理子	委員	早川 みちる
	委員	速水 太郎	委員	廣瀬 勝海	委員	福岡 邦夫
	委員	星野 芳次	委員	松島 正憲	委員	山本 圭織
	委員	脇坂 青空				

※50音順にて記載

○太田市広報課

- ・高橋 正敏 【第1分科会】
- ・小内 正 【第2分科会】
- ・堀越 利基 【第2分科会】

○太田市無作為抽出職員

- ・峰岸 崇弘 【第1分科会】
- ・森 英明 【第1分科会】
- ・小島 克仁 【第2分科会】
- ・新井 みゆき 【第2分科会】

○構想日本

＜コーディネーター（議論の整理役）＞

- ・田中 俊 （構想日本 プロジェクトマネージャー） 【第1分科会】
- ・高澤 良英 （市原市企画部 部長） 【第2分科会】

＜ナビゲーター（論点の提示役）＞（第3回のみ参加）

- ・室田 明里 （株式会社アンドアイ 代表取締役社長） 【第1分科会】
- ・中田 華寿子 （構想日本 理事） 【第2分科会】

○テーマ及び各回の議論

テーマ：「行政情報のあり方」

開催日：

- ・第1回会議：2019年8月17日（土）

【全体会】

- ・市長挨拶
- ・自分ごと化会議の概要説明（構想日本）
- ・テーマに関する説明（太田市広報課）

【分科会】

- ・委員の自己紹介
- ・議論

- ・第2回会議：2019年8月31日（土）

【全体会】

- ・課題発見シートの概要説明（構想日本）

【分科会】

- ・第1回会議振り返り
- ・OBOGによる事例紹介
- ・小グループにて議論（OBOGも議論に参加）
- ・分科会内で情報共有

【全体会】

- ・各分科会における議論報告

- ・第3回会議：2019年11月10日（日）

【全体会】

- ・改善提案シートの概要説明（構想日本）
- ・ナビゲーターによる事例紹介

【分科会】

- ・第2回会議振り返り及び中間とりまとめの概要説明
- ・議論（ナビゲーターも議論に参加）

【全体会】

- ・各分科会における議論報告

- ・第4回会議：2019年12月14日（土）

【全体会】

- ・第3回会議振り返り及び中間とりまとめⅡの概要説明（構想日本）

【分科会】

- ・議論

【全体会】

- ・各分科会における議論報告
- ・委員の感想
- ・市長挨拶

3. 「太田市自分ごと化会議 2019」からの 行政に対する5つの提案と 私たちができる4つのこと

私たちは「行政情報のあり方」をテーマとして、これまで全4回議論を重ねて参りました。

議論の中で見えてきた課題と解決策を踏まえ、行政に対する5つの提案と私たちができる4つのことを以下のとおりまとめます。



(1) 行政に対する5つの提案

- 提案1. まずは情報発信目的を明確にする
- 提案2. 情報内容に応じた適切な「媒体・頻度」で発信する
- 提案3. 「あなた」に向けて発信する
- 提案4. 「広報紙」の定期的なブラッシュアップ
- 提案5. 事後検証を実施して、次につなげる

(2) 私たちができる4つのこと

- 1. 太田市のことを「自分ごと」として行政情報を取りに行く
- 2. 自らが情報発信媒体になる
- 3. 積極的に地域や人と関わる
- 4. 行政へ「こんな情報が欲しい」と提案してみる

具体的な内容は以下のとおりです。

(1) 行政に対する5つの提案

本会議を通して、行政の扱う情報は予想以上に多岐に亘ることが判りました。それらの情報を一つでも多く市民へ届けるため、私たちから以下のとおり5つの提案を致します。

今後の行政情報発信における参考としていただければ幸いです。

提案1. まずは情報発信目的を明確にする

提案2. 情報内容に応じた適切な「媒体・頻度」で発信する

提案3. 「あなた」に向けて発信する

提案4. 「広報紙」の定期的なブラッシュアップ

提案5. 事後検証を実施して、次につなげる

それぞれの提案についての詳細は以下のとおりです。

提案1. まずは情報発信目的を明確にする

■ 提案内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「誰に対して」、「何を伝えたいのか」を今一度整理する必要があるのではないか。」との意見が挙げられました。

そこで、私たちは「**まずは情報発信目的を明確にする**」ことを提案します。

提案1. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・「誰に対して、何を伝えたいのか」を明確にするためには、行政側の意思だけでなく、市民の関心事を把握することも必要だと思う。アンケートなどを用いた定期的なニーズ調査の実施が望ましいのではないか。
- ・それぞれの分野によって、「誰に対して、何を伝えたいのか」は異なると思う。よって、情報発信を広報課や広報紙に依存するだけでなく、全ての担当部署が一緒になって取り組む必要があるのではないか。
- ・行政が発信する情報を“Must 情報（みんなが知っておきたい情報）”と“Want 情報（個人として知りたい情報）”に分けて考えると整理しやすいのではないか。

例) Must 情報・・・防災、防犯、ゴミの出し方、交通ルール など

Want 情報・・・子育て、介護、医療、健康、福祉、〇〇教室、イベント、スポーツ、文化、観光、自身の活動を広報紙に載せたい場合の手続き、各種補助金・助成金 など

- ・“今知りたい情報（フロー情報）”と“必要なときに調べたい情報（ストック情報）”とで整理することも一案ではないか。

提案 2. 情報内容に応じた適切な「媒体・頻度」で発信する

■ 提案内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「情報をしっかりとターゲットへ届けるためには、“人の習慣にどう入り込むか”の視点が重要ではないか。人の習慣に入り込むためには、“どんな媒体を駆使するか？頻度はどうするか？”について検討する必要がある。」などの意見が挙げられました。

そこで、私たちは「**情報内容に応じた適切な“媒体・頻度”で発信する**」ことを提案します。

提案 2. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・市民はそれぞれ生活パターンが異なる。世代も異なれば行く場所も異なる。一方で、みんなが共通して行く場所はスーパーやゴミステーションだと思う。そこに必要な情報を掲示することはとても効果的だと思う。
- ・育児に関する情報について発信したい場合、若い人は新聞を取っていない（広報紙を取得出来ない）ことを想定し、（広報紙への掲載でなく）保健センターへポスターを張ることも一案ではないか。
- ・AED の使い方などの救命講習に関する情報が広報紙に掲載され広く周知されていたが、本自分ごと化会議のうち多くの委員は広報紙を見て講習を受けたのではなく、自身が所属する自治会や会社の案内で講習を受けていた。広報紙に載せるだけでなく、講習の主催者など特定の人に向けて個別に情報発信する手段も考えられるのではないか。
- ・ゴミの分別についての情報は広報紙に載せるだけでなく、ゴミ袋自体に記載するという手段もある。
- ・若い人向け情報発信は、LINE やツイッターを利用することが望ましい（更新頻度を上げた情報発信が望ましい）のではないか。
- ・外国人に対しては、動画や画像（絵など）を活用した視覚的な情報発信が望ましいのではないか。
- ・Must 情報の発信頻度は多くすることが望ましい。繰り返さないとすぐに忘れてしまう。日常の中で、目・耳から自然に入るようになることが望ましい。
- ・「あそこで見た、ここでも見た」が重要。例えば、「スーパーで張り紙を見た、ガソリンス

タンドで張り紙を見た、それから広報紙を見て、“あ、これは大事な情報なんだ。”と気付く。つまり、様々な手段を組み合わせた情報発信が必要だと思う。但し、なるべくお金をかけないアイデア出しが重要だと思う。

- ・行政が扱う情報は多岐に亘る。そこで、どんな情報がどこに載っているか分かる「情報マップ（紙一枚の絵をイメージ）」を作成して市民へ配布出来ると親切ではないか。知りたい人が知りたい時に調べやすくなる。
- ・防災情報は広報紙に複数回掲載することが望ましいのではないか。QRコードを載せて防災メディアに簡単にアクセスできるようにすることも一案。
- ・災害情報はFM TAROやSNS、メールによる発信が望ましい（FM TAROは太田市全域に行き届くようになって欲しい）。なお、少し前に売り出されていた「おおたんラジオ」を各戸配布出来ないか。
- ・過去に被災した際の問題点や市民の声を取り入れた「災害マップ」を市民に行き渡らせると効果的ではないか。

提案3. 「あなた」に向けて発信する

■ 提案内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「自分には関係が無いと思われがちだが、実は社会で生活していくために必要な情報は沢山ある。それらの情報を届けるためには、“あなた”に向けた情報であることを強調すると効果的ではないか。さらには、“あなた”に向けた記事で興味を惹かせて、それを切り口として他の情報にも触れてもらえるような工夫が出来ると良い。」との意見が挙げられました。

そこで、私たちは“あなた”に向けて発信することを提案します。

提案3. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・「“あなた”に向けた」記事として、「楽しく、ワクワクする」ような内容を掲載し、興味を惹かせる。それをきっかけとして、他の行政情報にも触れてもらうよう工夫する必要があるのではないか。
- ・「伝える」から「伝わる」にするためには、「誰に何を伝え、どのように行動して欲しいのか具体的なイメージを持って発信」する必要があるのではないか。

提案 4. 「広報紙」の定期的なブラッシュアップ

■ 提案内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「太田市の広報紙は月 3 回発行していたり、読みやすいようにレイアウトを変えてみたりと頑張っている。しかし、手に取ってもらえない事もあり、あまりにも悲しい。実際に読んでみると重要なことが多い。もとより、紙媒体には良さがある。Web 上では自分の知りたい内容を検索するので、部分的にしか情報が入ってこないが、紙媒体で見ると自分が興味のない情報も目に入ってくることもある。」などの意見が挙げられました。そこで、私たちは「“広報紙”の定期的なブラッシュアップ」を提案します。

提案 4. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

■ 発行頻度の検討

- ・ 太田市広報紙は月に 3 回と発行頻度が多い。しかし、受け手からすると情報量が多いように感じることもある。漠然と発信されると市民は混乱するのではないか。その解決策として、例えば、「福祉系の情報を 1 日号、防災系の情報を 10 日号、生涯学習系の情報を 20 日号のように分野別に整理して発行（“月 1 回は広く全般” も一案）」することや、「若者向けの情報を 1 日号、子育て世帯向けを 10 日号、シニア向けを 20 日号のようにターゲット別に整理して発行」すると見やすくなるのではないか（その際は特に表紙において分野やターゲットが分かるようにする）。タイムリーな情報発信を意識していると聞いたが、即効性の求められる情報については果たして広報紙による発信が適切であるか再度検討する必要があるそう。
- ・ 関心のあることは人それぞれのため、行政情報の発信は難しい面もあると思うが、全員を満たそうとして満遍なく発信していくと、却って全体に関心を無くしてしまう恐れがある。ある程度絞って発信することも一案だと思う。

■ 配布方法の検討

- ・ 広報紙がどのくらいの市民に届いているか調査分析したほうが良いのではないか。具体的には広報紙の約 8 割が新聞折り込みによる配布とのことだが、太田市民の新聞購読率はどのくらいで、過去と比べてどの程度下がってきているなど調査分析することが望ましいと考える。一方、新聞折り込み以外については、公共施設やコンビニに配置されているとのことだが、各箇所でもどのくらい持ち帰られているかについても調査分析することが望ましいと考える。仮に配置箇所において広報紙のストックが無くなった場合は適宜補充することが望ましいと考える。
- ・ 配置箇所について吟味する必要がある。例えば、ターゲット別に整理して発行する場合は、対象者が良く利用しそうな箇所における配置数を増やすことが効果的ではないかと思う（例：若者はコンビニや図書館など。子育て世帯はスーパーや児童センター、保育園など。

シニアは集会所など)。

- ・待ち時間を必要とする場所に配置することも一案。待ち時間は手元にある冊子を見ることが多いと思う(例：若者は美容室や飲食店など。子育て世帯は銀行や病院、子どもの習い事教室など。シニアは銀行や病院など)。
- ・スタバなどゆっくりお茶が飲めるようなところがあると良い。来店しておしゃべりしている女性が手に取るのではないかな。

■掲載内容の検討

- ・市長のコラム欄について、月に一回程度、副市長や部長のコラムに代わると面白い。行政の顔をより近くに感じられるかもしれない。
- ・紙面作成に際し、市民に参加してもらうことも一案(例：高校生が編集に携わるなど)。
- ・今月のレシピを載せてみることも一案。
- ・広報紙にクーポンは付けられないかな。

■デザインやレイアウトの検討

- ・文字はもう少し大きくして要点を掴んだ表現が良い。
- ・見出しをポップにすることも一案。
- ・読みたくなる言葉選びが必要ではないかな。
- ・デザインなどが親しみやすいと受け入れてもらいやすいのではないかな。
- ・年代別やカテゴリー別に表記することが必要ではないかな。

■広報紙の教材化について検討

- ・大人になっていきなり広報紙を読む習慣はつきにくいかもしれない。広報紙を学校の教材にしたら面白いのではないかな。

■広報紙自体の宣伝について検討

- ・広報紙の内容は実際に読んでみると重要なことも多い。広報紙自体の宣伝が出来ると良いのではないかな。

提案5. 事後検証を実施して、次につなげる

■提案内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「“伝える”から“伝わる”広報にするためには、“伝わっているか”、また、“伝わり行動に移されているか”を評価し、次につなげていくことが重要ではないか。」との意見が挙げられました。

そこで、私たちは「**事後検証を実施して、次につなげる**」ことを提案します。

提案5．を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・情報発信後のリサーチは必須である（広報紙がどのくらいの市民に届いているのか？新聞購読率はどのくらいか？その変遷は？配置箇所ではどのくらい持ち帰られているか？など）。
- ・広報紙のリニューアル後における市民の反応について調査出来ると良いのではないかな。
- ・広報紙に載せた情報がどのくらいフィードバックされているか検証できると良いのではないかな。
- ・熱中症に注意しましょうと何度も広報しているが、熱中症で緊急搬送される人が減っていないと聞いた。注意喚起のお知らせもマンネリ化すれば伝わらなくなってしまうのではないかな。効果的に伝えるための事後検証は必要である。

（2）私たちが出来る4つのこと

第1回および第2回会議において、「何故、広報紙が読まれていないのか？」について議論したところ、「広報紙を読まなくても困らずに生活出来てしまうのではないかな？」との意見が挙げられました。しかし、議論を重ねるにつれて、「広報紙を読まなくても生活出来てしまうことは、地域に関心がないことの表れであり、やがて“孤立化”に繋がってしまうのではないかな？ややもすれば地域社会が崩壊に向かってしまうのではないかな？」との意見が出されてきました。

いくら行政が情報発信について様々な対策を講じてくれたとしても、受信側である私たちの意識が変わらない限り、その情報は「伝わらない」と考えます。

これらを未然に防ぐため、「私たちが出来る4つのこと」を以下のとおりまとめます。

- 1．太田市のことを「自分ごと」として行政情報を取りに行く
- 2．自らが情報発信媒体になる
- 3．積極的に地域や人と関わる
- 4．行政へ「こんな情報が欲しい」と提案してみる

それぞれの詳細は以下のとおりです。

1. 太田市のことを「自分ごと」として行政情報を取りに行く

■内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「まずは自分たちが“太田市をもっと好きになり、さらに良くしたい”と思うことが大切ではないか。行政はあくまでもサポート的な立ち位置であり、主体はあくまでも市民である。つまり、“受け身だけでなく自分から向かうことが重要”だと思う。」などの意見が挙げられました。

そこで、私たちは「太田市のことを“自分ごと”として行政情報を取りに行きます」。

1. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・わたしたちのまち「太田市」のことに興味を持つ。
- ・広報紙の見出しだけでも見てみる。
- ・広報紙をコンビニで見かけたら手に取る。
- ・定期的に太田市HPを見る。
- ・マチイロをダウンロードしてみる。
- ・普段利用している媒体（チャンネル）だけでなく、他の媒体からも情報収集する。
- ・特に用事が無くても市役所へ行ってみる。
- ・災害時における避難先を再確認する。

2. 自らが情報発信媒体になる

■内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「自分一人が変わっても、きっと太田市は変わらない。だからこそ、自ら外へ発信していくことが重要ではないか。個人も一つの情報発信媒体になれる。個人が媒体になることによって、利用媒体が異なる人たちの仲介役にもなれる。知っている人からの情報は安心できるので、メリットは大きい。」などの意見が挙げられました。

そこで、私たちは「自らが情報発信媒体になります」。

2. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・自分が発信源となる意識が必要。
- ・情報発信源になれるよう自ら広報紙を読み続ける。
- ・会社の朝礼で自分ごと化会議について話してみたら、後輩が興味を持ってくれた。まさか興味を持って聞いてくれているなんてと驚いた。所属する団体で発信してみることも一案だと思う。
- ・自分の生活の中で関わる人（家族や友人など）と情報共有する。

- ・隣組や地域交流会などにおいて、顔と顔を合わせた「ロコミ」で広める。
- ・近所や仲間内で会話する。
- ・ママ友グループで共有してみる⇒他のグループに発展してみる⇒どんどん広げる。
- ・日常会話において、太田市のことを話してみる（例：「広報紙ってあるらしいよ」など）。
- ・回覧板で情報を流す（見出しは大きく取り上げる）。
- ・過去に経験した災害における反省点（今回の台風など）を話す。

3. 積極的に地域や人と関わる

■内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「伝える”でなく“伝わる”ためには“地域や人との交流”が最も重要。発信媒体云々ではないと思う。人とのキャッチボールが出来て初めて情報が活きてくる。一方、情報が溢れている世の中で、“どれが自分に適しているか”という判断も“他の人と話すこと”で見えてくるのではないか。」などの意見が挙げられました。

そこで、私たちは「**積極的に地域や人と関わります**」。

3. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・色々な分野の人と交流を増やし、いざという時に相談出来るようにしておく。
- ・信頼が出来る人を増やす。
- ・区長さんに関わりを持つ（いきなり市役所ではなくて）。
- ・近所の声掛けを普段からやっておく（一人でも多くの顔見知りを作っておく）。
- ・地域や子供会の役員は“楽しく”担うことを意識する。
- ・色々な人と話す場が大切（自分ごと化会議も一つの交流の場だと感じた）。
- ・行政区単位で自分ごと化会議を開催すれば太田市が変わるのではないか。
- ・太田市に関心を持ってもらう場づくりが必要。
- ・若者が集まりそうな催しを開く。
- ・子どもとその親が集まりやすい（楽しい）イベントを企画する。
- ・友人と行事に参加してみる。
- ・有事の際に備えて連絡網を作っておく（災害弱者を把握しておく）。
- ・有事の際に即座に行動できるよう、普段から自分ごととして家族や友人と防災・防犯情報を見て話をしておく。

4. 行政へ「こんな情報が欲しい」と提案してみる

■ 内容

これまでの議論および委員が記入した改善提案シートにおいて、「“発信のみ”、“受信のみ”といった一方向のコミュニケーションでなく、双方向のコミュニケーションがあるとお互いの信頼関係に繋がるのではないか。個人、地域、行政の信頼関係こそが行政情報だと感じた。」などの意見が挙げられました。

そこで、私たちは「行政へ“こんな情報が欲しい”と提案してみます」。

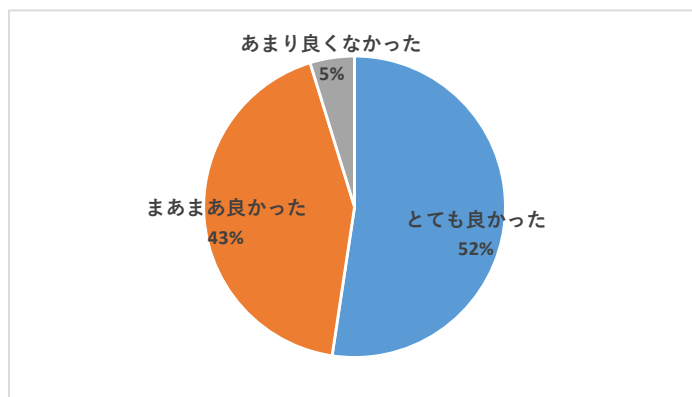
4. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・行政に対し意見出来るようになる。
- ・「苦情」ではなく「行政と建設的なコミュニケーション」が取れると良い。
- ・被災した際は地域ごとに振り返りを行った上で、行政へ「こんな情報が欲しい」提案する。
- ・先日の台風 19 号の際、道路が冠水していると聞いてどうにも動けなかった。ハザードマップを見ると私の住む地域は全域が浸水想定区域に指定されていた。なかなか非難が難しいと感じた。「今回の台風ではこの道が冠水しました」というような結果をまとめた情報が欲しい。
- ・先日の台風 19 号の際、最初に避難した場所自体が危ないとされ、別の避難所へ移ることがあった。しかし、避難所が途中で変わったという確実なことは避難所に居る人しか分からなかった。あの日は避難所へ来ていないご高齢の方から「避難所が変わったの？」と沢山の電話をもらった。正しい情報を分かりやすく届けて欲しい。

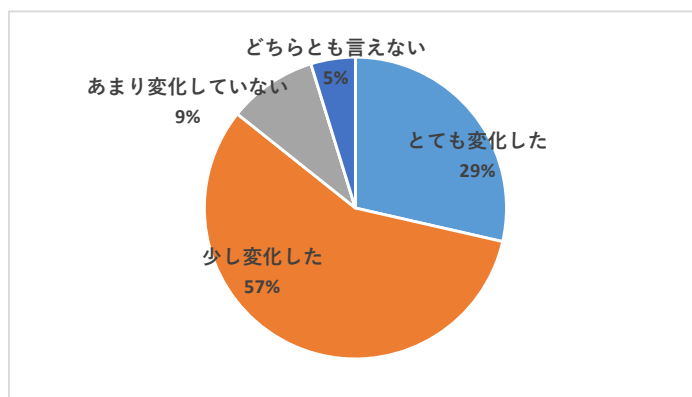
4. 付録：アンケート結果

第1回及び第4回会議にて実施した「参加委員及び参加市職員」を対象としたアンケートの集計結果は以下のとおりです。

1. 自分ごと化会議に参加してみていかがでしたか。



2. 自分ごと化会議に参加したことで「意識の変化」はありましたか。



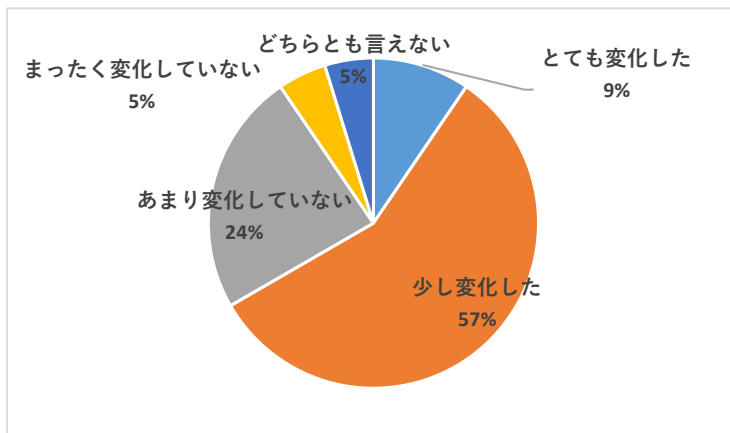
(具体的な意識の変化：委員)

- ・ 社会に敏感になった。生活に張りが出てきた。
- ・ 自分でもできることがあると知ることができた。
- ・ 会議をきっかけに地域に参加しようと思った。
- ・ 今まで、市政に興味どころか自分は関係ないくらいの気持ちでいたのが、市民の意見が大切になると感じた。地域についても少し行事へ参加してみようと思う（今までは高齢の親が参加している）。
- ・ 太田市に関心を持てた。
- ・ 仕事で伝えることがあるので、伝えるために大変勉強になった。

(具体的な意識の変化：参加職員)

- ・ 業務の中で常に自分ごと化を意識するようになった。
- ・ 参加者の広報紙への意識がとても高く、期待が大きかったので、より伝わる紙面づくりが大切であると感じた。
- ・ 色々な人の考え方を聞いて少しずつではあるが、何事にも前向きに考えるように変化してきたところがあると思った。

3. 自分ごと化会議に参加したことで「行動の変化」はありましたか。



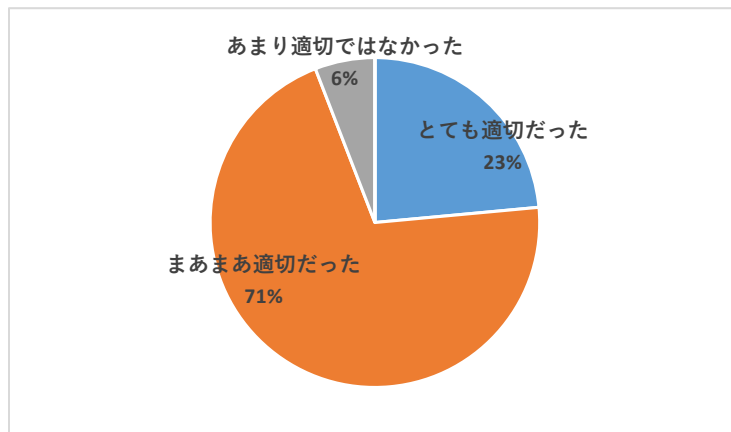
(具体的な行動の変化：委員)

- ・ 広報紙を読むようになった。道の駅で配布されていることを知り、もらうことにした。また、コンビニエンスストアでも配布されていることを知り、知人に教えた。
- ・ 市に対して道路の危険箇所について情報提供してみた(情報が伝わるためには行政からの一方的な情報発信ではなく市民と行政のコミュニケーションが重要)。
- ・ 広報紙や回覧板を読むようになった。身の回りの掲示物や告知などに目が向かうようになった。
- ・ 新聞に入っている広報紙を手にとって見てみた。
- ・ マチイロアプリを入れた
- ・ 自分中心的なことで広く他人の日とのことを色々考えるようになった。
- ・ 広報紙について話をするようになった

(具体的な行動の変化：参加職員)

- ・ 自分の仕事を逆視点で考えるようになった。
- ・ 広報紙面に限らず、情報発信のあり方全般について今まで以上に考え、業務を行うようになった。
- ・ 人と話すときも伝えるではなくて、伝わるために言葉を選んで話すようになったと思う。

4. テーマ「行政情報のあり方」は、自分ごと化会議で扱うテーマとして適切でしたか。

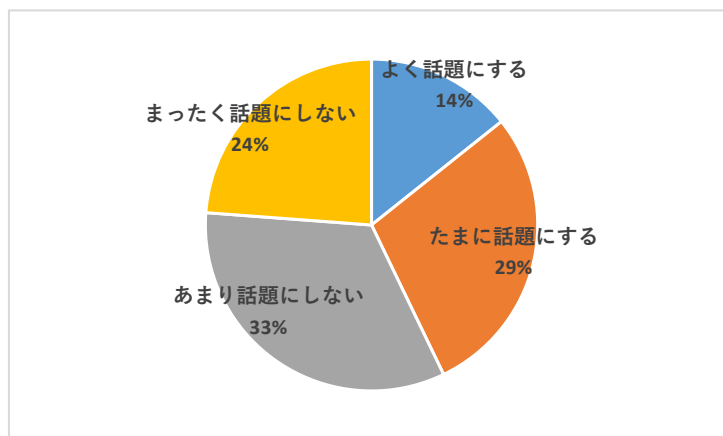


(自分ごと化会議で扱うことが適切だと思うテーマ)

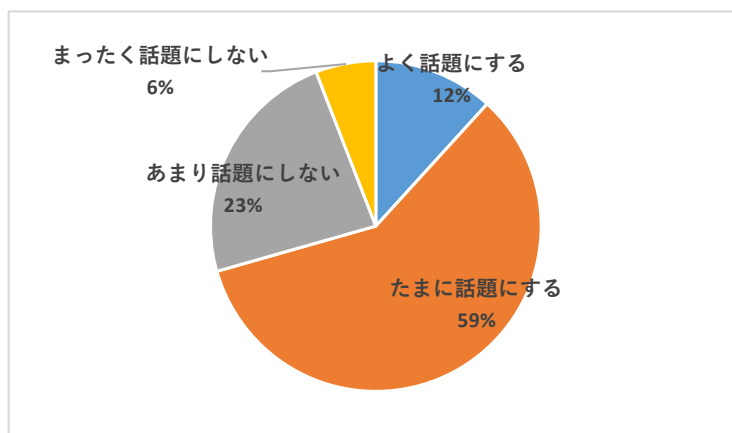
- ・ 防災
- ・ 市民として誇れる太田市の姿について
- ・ 地域活性化について（地域コミュニティについて）
- ・ 人生 100 年時代を乗り切るための対策方法
- ・ 健康→ゴミ→情報なので、再度、もう少し市民生活に近いテーマがいい
- ・ シルバービレッジ
- ・ 外国人住民との交流
- ・ 環境問題

5. 普段、行政から発信される情報について家族や友人など身近な人と話題にしますか。

■ 第1回会議における回答結果

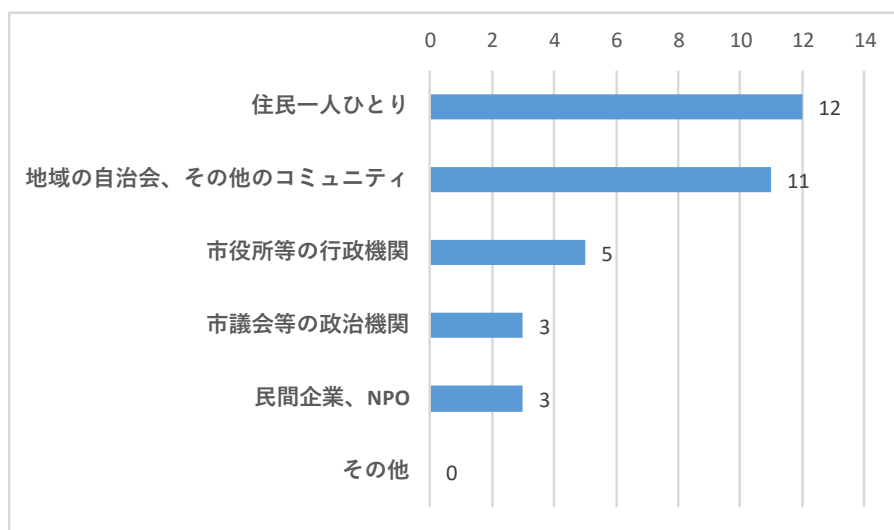


■ 第4回会議における回答結果

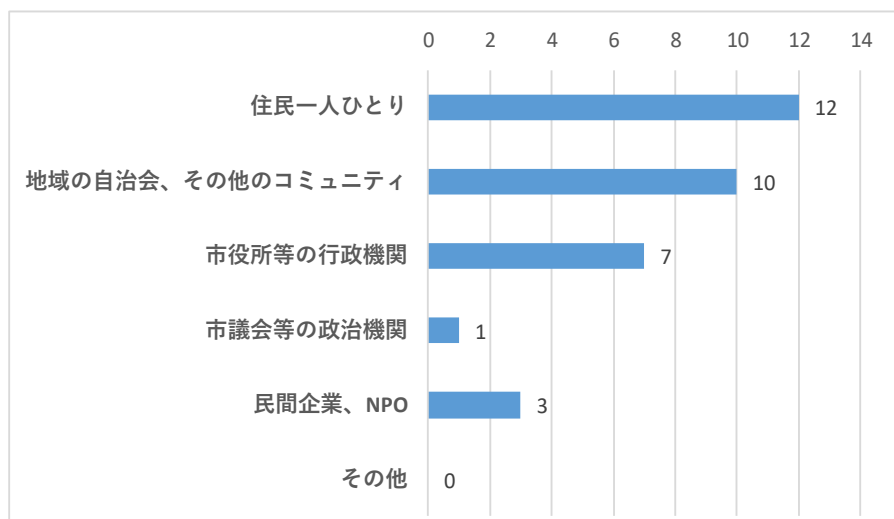


6. 太田市をより良くするために特に重要と思う主体を選択してください。(複数選択可)

■ 第1回会議における回答結果



■ 第4回会議における回答結果



7. 会議全体を通して特に印象に残ったこと、感想等

(委員の感想)

- ・ 自分一人が変わっても変わらないと思っていたが、会社の朝礼で会議のことを話したことで、後輩が興味をもってくれた。自分が発信源になる意識をもつことが必要。行政から発信すると他人事になってしまうので、市民一人一人を発信源として情報を発信させていくのが良いのではないかな。
- ・ 同じテーマで、世代が違う人との意見が聞けて良かった。太田市をより良くするきっかけとなる会議に参加できてよかった。個人で何ができるかを今後の課題として、行政との関わりを持っていきたい。
- ・ 行政も考えながら情報発信していて、苦戦している。ただ工夫はもっとできるはずなので、頑張ってほしい。清水市長の知名度が高いので、その知名度を使った広報活動ができるのではないかな。
- ・ よりよい太田市にするために、地域と関わっていきたい。
- ・ 情報伝達は実に難しいと思う。文書で伝えても、読まない。口頭で伝えたのでは、忘れられてしまう。それでも何となく、伝わっていくものだと思う。情報の受け手は実に我が儘だと思う。
- ・ 「おもしろそうだしせっかく選ばれたのだから」という安易な気持ちで気軽に参加してみたが、色々な方のいろいろな意見を聞くことができて、市民としての自分のあり方についても考える機会となった。大した意見が出せなかったが、今回出された意見や提案が少しでもいい形で今後の市政に反映されることを期待している(自分の仕事でも参考になることが多くあった)。
- ・ 普段、話をする事の出来ない方々と話することができて本当にいい機会になった。

(参加職員の感想)

- ・ 仕事でいろいろな情報を発信することが多く、「行政情報のあり方」とのテーマだったので、興味があり参加した。年齢や家庭環境が違う委員さんが集まって、色々な意見があり、考え方が聞けて良かった。特に高校生や学生から出た意見で興味がないから広報紙は見ないと聞いて、関心を持ってもらうために、発信する方法や伝え方を工夫することが大事だと考えさせられた。
- ・ 職員参加(動員)があった方がいいと思った。ボランティアだと集まりにくいのでは。